

令和５年度第１回学校施設との複合化WG内打合せ

1 開催日時	令和６年１月３０日（火） 午後１時３０分から３時まで	
2 開催場所	本庁舎４階議会第４会議室	
3 出席者	防災課	大森課長、小関主任主事
	生涯学習課	水島課長、石原課長代理
	こども育成課	長島課長
	教育総務課	守屋課長、石原課長代理、山岸主任主事
	行政経営課（事務局）	櫻井課長、渡辺
4 議題	1 各課における令和６年度以降の主な取組について 2 学校施設との複合化に向けた検討スケジュールについて	
5 配付資料	資料 学校施設との複合化に向けた検討スケジュール 参考資料 施設等所管課の取組スケジュール調査票	

6 会議概要

(1) 開 会

【事務局】

－ 開催の趣旨説明 －

(2) 議 題

ア 各課における令和６年度以降の主な取組について

【事務局】

来年度、学校施設の整備構想策定に向けた懇話会を立ち上げる予定となっている。学校施設との複合化プロジェクトチームとワーキンググループは、その懇話会と連携する必要があることから、開催期間を延長し、令和７年度末までとした。

次に、新たに追加した項目として、令和６年度当初から、サンライフ鶴巻のあり方を検討することとした。鶴巻公民館の方向性と合わせた検討とするため、生涯学習課、スポーツ推進課、行政経営課で協議を進める。

令和６年度の地域との意見交換は、学校整備指針策定後、教育委員会とともに地域へ入っていくため、その時期と合わせている。

【教育総務課】

学校整備指針の策定を、今年3月から6月に後ろ倒しした。整備構想の第1弾として大根地区を予定しており、地域との意見交換をしながら懇話会を立ち上げて、令和6年度末に中間とりまとめをしたいと考えている。

その後、令和7年度に本格的な策定作業を行い、同年度末に構想を策定するという形へ変更した。

【防災課】

当初から、避難所の数が足りなくなることはお伝えしてきたが、大根地区を皮切りに、順次考えていかなければならない。令和7年度に、県による被害想定調査が実施される予定であり、この結果をもとに、地域防災計画の改定とともに避難者数を変更する。東京都の被害想定を見ると、家の耐震化が進んだ関係で避難者数が若干減ることを予想していたが、実際は10パーセントぐらいしか減ってない。それを考えると、単純に地域防災計画に載っている避難者数が同じ割合で減ったとしても、複合化を予定する施設では収まらないので、「残す」「残さない」という部分を含めた話をしていく必要があると思っている。

例えば、二つの学校が一つになることを考えると、自治会単位での避難先の割振りを見直す必要も出てくる。複合化を進めていくことは重々承知はしているが、既存の施設だけでできるのかどうかは、想定数の見直しを踏まえて検討していく。

【生涯学習課】

南公民館の関係で、境界確定測量と地盤調査を上半期に実施する。その結果を踏まえ、下半期に南公民館の整備の方向性を決定し、社会教育委員会議と教育委員会議、それぞれ報告した後、地域と話を進めていけるような体制をとっていききたい。

【こども育成課】

児童館については当初の予定から1年ぐらい遅れているという状況である。令和4年にカルテを作成し、それを元に方向性を決めるという考えだったが、コロナの5類への移行とともに利用形態が変わってきたことや、高齢者サロンの空白地域での活用を視野に検討するべきと判断し、当初の考え方をもう一度見直したい。そのため、令和6年度に入って地域の意見を聞きながら方向性を固めていきたい。

その中には、南地区のいずみ児童館や平沢児童館について、南公民館の方向性も踏まえて、どのようにしていくかを考えていく。半日館への移行は、令和6年4月から西大竹児童館を対象としている。この件については、先日、議員にも情報提供しており、順調に進んではいるものの、働き口がなくなることについて、厚生員から不平不満が出ることは想定される。

いずみ児童館については、利用者（子ども）が戻ってきた部分があるが、横野児童館は、新東名ができた影響などにより、家や子どもがかなり減ったということも踏まえ、閉館・廃止の方向で進めたいと考えている。

イ 学校施設との複合化に向けた検討スケジュールについて

【事務局】

児童館は、二次避難所に位置付けられているか。

【防災課】

位置付けられているが、収容可能人数にはカウントされていない。現時点での想定避難者数は、一次避難所で全て賄えているので、二次避難所は、あくまでも余剰として考えている。

【こども育成課】

有事の際使えるなら、鍵を開放するべきかなどを考えた。例えば、家が倒壊してしまった人が急遽使いたいということもあり得る。

【防災課】

地域の要望があって、所管課において使用させてもよいとの判断であれば、対応してもらいたい。ところで、サンライフ鶴巻は閉館の方向なのか。

【事務局】

再配置計画上では、建物は廃止する予定である。

【防災課】

利用者は多いのか。

【事務局】

それなりに多く、ダンス関係の団体などの固定客がいるようだ。

【防災課】

残すことも考えられるのか。

【事務局】

まだわからないが、設備上の不具合も多いため、そういった部分がネックとなる。

【生涯学習課】

市長査定における所管課の説明で、トレーニングルームをおおね公園に集約し、サンライフ鶴巻の多目的ホールは、ダンスやフィットネスができるような機能を持たせたいとの話の中で、鶴巻公民館と合わせるのはいかがでしょうかと市長が発言していた。鶴巻公民館とサンライフ鶴巻の更新年度は、どちらも 2040 年代であり、検討の余地はある。公民館の形状も変則なので、一般的な形状で管理がしやすい建物にしたいという考えは持っている。

【事務局】

サンライフ鶴巻を廃止する代わりに広畑小体育館を残すのであれば、機能

自体の補完できると思うが、鶴巻公民館の課題が絡んでくると、セットで考えていかなければならない。ただ、借地料を年間 500 万円払って維持していくのはどうなのかという思いがある（20 年間で 1 億円）。

鶴巻公民館自体をどこかに移転するという議論をしているのか。

【生涯学習課】

具体的には議論していないが、いずれは学校との複合化をしたいと思っている。しかし、更新年度に乖離があることが課題である。

【防災課】

大根・鶴巻地区には、屋内施設がない。そういった中で、サンライフ鶴巻を廃止した場合に、その機能を補完するため、広畑小学校の体育館と広畑ふれあいプラザを残すなどの想定はあるか。大根小中学校と広畑小学校の三つが一つになった場合に、恐らく人数的に入り切らないので、平時も使える施設が残ると一番助かる。

【事務局】

サンライフ鶴巻は防災拠点になっているのか。

【防災課】

二次避難所にはなっていないので、収容可能人数にも入っていない。

【生涯学習課】

立地で考えると広畑小学校は、大根地区の端で山の上である。

例えば、サンライフ鶴巻の地権者が代替わりしたタイミングで無償にしてみようなど、賃借料の課題が解消されることがあれば、一体化もあり得と思う。鶴巻公民館は、駐車場も 3 か所に分かれていて、台数も多くない。

【事務局】

利便性の部分で、利用者からの意見はあったのか。

【生涯学習課】

施設内の軽微な改修（畳の張替え等）などの意見はあるが、利便性に課題があるという声は聞いていない。館長からは雨漏りの話はよく聞いているほか、所管課としては、防犯面から見て薄暗い箇所があったり、構造自体はあまりよくないと感じている（地下から上がる場所など）。

【事務局】

鶴巻公民館をサンライフ鶴巻の敷地で一体化という話は、なぜ出てきたのか。

【生涯学習課】

市長査定でトレーニングルームの機能を変えていくという話を聞いて、どうせ変えるのであればということだと思う。

【事務局】

一次避難所（学校）の収容人数は。

【防災課】

収容人数だけで換算すると余裕はあるが、2～3の校舎が1つになると、全然入りきらない。

【事務局】

面積も2分の1や3分の1になるわけではなく、1校当たりの規模は大きくなる。人数は減少していくものの、学校施設はそれなりのスペースが必要で、体育館も西中と同じように倍くらいの大きさになることもある。

【教育総務課】

ただし、3校が1つになるから3校分の広さということではない。特に広畑小学校は、1クラスで吸収できるので、1校分にもならない。

【事務局】

後付けで計算していくしかないのではないかな。

【教育総務課】

避難想定者数は、年齢の属性も考慮して決まっているのか。

【防災課】

県の調査では含めていると思う。

【教育総務課】

そうすると、単純に将来的に人口が減れば、同じ割合で避難想定者数が減るわけではないということと理解した。

【事務局】

南公民館について、測量と地盤調査の結果を受けて、隣接地を使うかどうかを決めるということか。

【生涯学習課】

2つの方向性案のどちらかを選択し、まずは、市の方向性を決めていくという認識である。現実的な第1案を採用するための素材として、これらの調査があると考えている。

【事務局】

第1案の隣接する民有地を使ったリース方式で進める場合に、地権者の同意をどの段階で得るのか。

【生涯学習課】

測量の段階では、地権者に話をする必要があると考えている。

地盤調査は、重量鉄骨造で建て替えることに耐えられるかどうかを目的としたもの。現在の駐車場の位置に建てるにしても、一度壊して建て替えるにしても、駐車場が必要となることから、その目的で土地を借りることもあり得るので、地権者との調整は必ず伴ってくる。

また、文化財・市史担当から、建替えの場所等が決まり次第、試掘調査を実施し、本格調査が入るのか否かを確認するとの話があった。本格調査は、2年

程度かかる場合もある。

【事務局】

測量と同時に、年度当初から地権者交渉を進めることと、試掘調査の件をスケジュールに加えてよいか。

【生涯学習課】

よい。今年度内に改めて、農協へ話をしておくべきかもしれない。

【事務局】

前回のワーキングでは、方針の策定について、成果物を作成するなどの想定はしていないとのことだったが、どのようなイメージか。

【生涯学習課】

地元に話をする際の判断材料になるものは作る必要があると考えている。

【事務局】

地盤調査の際に、どの辺りに建てるなどの絵をかいてしまうということか。

【生涯学習課】

その予定である。

【事務局】

隣接地を使用する場合は、借地の想定か。

【生涯学習課】

まずは、地権者と交渉する中で決めていきたい。

【事務局】

昨年、農協と話をした時は「(倉庫を)使わない」とのことで、売るか貸すかの具体的なことについて明言はしなかった。

【生涯学習課】

地権者へは「駐車場としてするため」とした方が話はしやすい。

【事務局】

借地であれば、現在の駐車場の場所に建てるか、今の場所に建てるかの2択になる。

【生涯学習課】

どちらにするかによって、建設にかかる期間が変わってくるので、そこも含めて判断したい。ただ、将来的に学校との複合化を考えると、ある程度面積が小さくなっても、極力費用がかからない手法を選びたい。環境共生課からは、リースでも何でもとにかくZEBと言われている。

【事務局】

ZEBとなると、過剰な費用負担が発生する。

【こども育成課】

一度解体してから現在の敷地に建てる場合、その間の代替を考える必要がある。

【生涯学習課】

他の公民館や近隣の開放型自治会館を照会するか。

【防災課】

それほど長期間にはならないのではないかな。

【事務局】

では、令和6年度に策定する方針を持って、令和7年度に地域に入ることによっていいかな。

【生涯学習課】

その予定である。その際には、児童館の話もしていきたい。

【こども育成課】

いずみ児童館については、借地であることや小田急沿線（老朽化した屋根が飛んでしまうなどの懸念）であることなどを踏まえて廃止したいと思っていたが、利用者が増えてきたので、すぐに廃止はできない。

【事務局】

理想としては、南公民館の更新のタイミングで、いずみ児童館と平沢児童館を集約することだと思う。それから、大根公民館について、実際に一番最初に複合化することになると思うが、令和6年度末に、学校整備構想の案ができて、最終的には令和7年度に策定という中で、実際の懇話会が令和8年度に開催となっている。どのような形でその学校整備構想に取り込んでいくかな。

【生涯学習課】

大根地区の学校に対して、公民館として何の機能を複合化するのかを検討する。整備構想には、どのレベルまで盛り込まれるのかな。

【教育総務課】

構想には、どこが公民館エリアとなるかなど、配置図も明らかにすることを想定している。例えば、調理室を兼用にすることなども明記したい。

【生涯学習課】

そうすると、もう少し前倒しで動く必要があるが、公民館のことだけで地域へ入っても難しい。

【教育総務課】

令和6年度に、大根地区の複合化にかかる全ての所管課で地域へ入っていくことを考えている。

【生涯学習課】

西公民館の場合は、自治会が複数あったことなどから、一度、懇話会を組織して、その結果を公民館運営協議会で決めていくという手法をとった。大根公民館の場合は、公民館運営協議会をベースに考えていくことがよいと思っている。地域へ話をする対象を、公民館運営協議会として、そこから自治会へも伝わっていくイメージを持っている。

【教育総務課】

令和6年度のところに、括弧書きで「各地域団体」とあるが、公民館の関係組織から代表者を推薦してもらい、組織することを想定している。懇話会のメンバーに何人か送り込んでもらって、会議で出た意見を持って帰ってもらい、公民館に特化した検討を進めてもらいたい。そして、その検討結果を、再度懇話会に持ってきてもらうという状況を期待している。

【生涯学習課】

学校と足並みを揃えて進めていきたい。

【事務局】

再配置における地域との意見交換、学校整備構想の検討及び策定作業、公民館の大根公民館懇話会の検討が連動して動く内容にスケジュールを整理する。

【教育総務課】

令和6年度末に各施設の方向性の決定とあるが、その策定に当たってパブコメを実施する予定はあるか。

【生涯学習課】

対市民というよりも、庁内向けの整備方針を想定している。

【事務局】

それぞれの方向性決定を再配置の後期実行プランで吸い上げる形にして。再配置のパブコメで総括することによいか。

－ 異議なし －

大根公民館の複合化については、利用者や地域は全く知らない状態か。

【生涯学習課】

再配置計画に基づいて、更新年度を迎えるときまでに建替えは目指していきたいというレベルでしか話はしていない。

【事務局】

西公民館の時のように、うまく地域の雰囲気や方向付けできるようにしたい。学校よりも自治会に気を遣って進めた印象がある。

【生涯学習課】

南公民館についても、地域や学校に対して丁寧に説明をしていきたい。

【事務局】

スタートの時点から、学校の話と一体で入って大丈夫か心配している。まずは、公民館運営協議会への説明からスタートした方がよいのではないか。

【教育総務課】

複合化ありきではよくないと思っている。指針には、複合化の可能性がある

施設として公民館を挙げているので、5月のパブコメをきっかけに話すのはどうか。

学校ではこういった動きがあるが、公民館は今後どうしていくか、というようなニュアンスで第一歩は入ればよいと思う。

【事務局】

ゴールは複合化だと考えているが、複合化前提ではなく、慎重に進めたい。

【生涯学習課】

何度か話し合いを重ねて、方向付けをしていく。西公民館や開成町（学校と社会教育施設の複合化）の事例等があるので、そういった情報も踏まえながら伝えていく。館長にも情報共有しながら、いずれは一緒に地域へ入ってもらうことを考えている。

【事務局】

令和6年度の第1四半期にスポットで地域への投げかけをスケジュールに追加させてもらう。このワンステップを入れておけば、一緒に協議に入っていくことを拒むことはないと思う。令和7年度のその他の公民館の方向性決定は、どの程度のレベルを想定しているか。

【生涯学習課】

南と大根以外の公民館は、更新年度がかなり先なので、基本的な考え方のようなものを示す形になると思う。

【事務局】

基本は複合化を前提としながら、ある地域では、こういった部分が課題となる、などの内容としたらよいと思う。生涯学習推進計画には、ハード整備的な部分を入れているのか。

【生涯学習課】

生涯学習推進計画は、令和3年度に策定した。策定当時は、具体的な記載はしていないが、公共施設再配置計画、公共施設保全計画との整合性を図っていくことは、認識していた。

【事務局】

ソフト的な側面から、子どもたちの地域の交流を目的に複合化をする、といったアプローチもあると思う。そういった部分も少し意識してもらえばいいと思う。

【こども育成課】

児童館を児童館として残すことは考えていない。しかし、地域が自由に使えるものにした場合に、公民館が有料なだけにアンバランスになるという課題がある。

子どもたちは、卓球ができないと利用しない。公民館は大人の施設という認識を持っているので、なかなかハードルが高い。公民館は、卓球ができる施設

ということが浸透していけば、機能移転もしやすい。

【生涯学習課】

複合化した場合、その跡地はどうするのか。

【事務局】

基本的には、売却を想定している。

ウ その他

【教育総務課】

指針に対する意見照会を2月に予定している。ワーキンググループを構成する課に対しては、別枠で照会する。

また、指針の中で、複合化の可能性がある施設というニュアンスで記載しているが、地域に対しては、決定事項という形で話をするのではないので御了承願いたい。

【事務局】

例えば、公民館なら公民館としての考え方をまとめてもらうという趣旨でよいのか。

【教育総務課】

よい。最終的にそれぞれの要素をまとめて1つにする。あくまでも皆さんの意見を聴きながらというスタンスなので、ありきのつもりはないということである。

(3) 閉 会

以上